

関西国際空港の強化に向けた要望書

平成27年11月

関西国際空港全体構想促進協議会

関西国際空港は、昨年度の発着回数が14.5万回と開港以来最高を記録し、旅客数は2000万人を14年ぶりに突破しました。なかでも国際線の外国人旅客数は699万人と、日本人旅客数を初めて上回り、訪日外国人観光客の急増ぶりを顕著に示しています。

特に、本年度においては、4月から8月までの関西国際空港の外国人出入国者数が対前年度比167%と、関空を除く全国平均の134%を大きく上回るなど、関西を訪れる外国人旅客の増加は衰えず、その結果、入国審査に要する待ち時間が長時間化するなど、関空の受入体制は利用する外国人の期待に十分応えられていない状況にあります。

来年5月の「伊勢志摩サミット」、それに続く、「ラグビーワールドカップ」、「東京オリンピック・パラリンピック」、「関西ワールドマスタースズゲームズ」など、内外との交流を一層活発とする国際行事も目白押しで、関空を利用する訪日外国人の数はさらに増加するものと思われます。

こうした状況からも、関西国際空港において、ソフト・ハードの両面から訪日外国人の受入環境の整備・改善が急務です。

折しも、関西国際空港では、債務の着実な償還と国際拠点空港としての機能強化を図るため、民間の活力とノウハウを活用するコンセッションが進められており、この取組が地域の成長と発展にも繋がるものと、我々も大きな期待を寄せています。

関西国際空港は、首都圏空港と並ぶ西の国際拠点空港として、さらにこれからも積極的に活用されなければなりません。地元自治体・経済界といたしましては、今後も新関空会社と連携し、インバウンド需要の拡大を見据えながら、中長距離国際線のネットワークの充実、アクセス利便性の向上、国際物流機能の強化、関西一円の物産・観光情報の発信強化などに取り組んでまいります。

国におかれましては、関西国際空港が引き続き、環境との調和、地域との共生が図られ、関西そして我が国の成長を担う国際拠点空港として着実に発展するよう、また急増する訪日外国人の受入体制の整備に必要な施策や措置が早急に講じられますよう、下記のとおり要望いたします。

記

1. 近年、我が国においてはインバウンド旅客の急増により、入国審査に長い待ち時間が生じており、その対策を求める声が高まっている。国内でも特に混雑が著しい関西国際空港の訪日外国人の受入環境の改善は喫緊の課題であり、入国審査官等の増員、審査ブースや機器の増設、業務の一部民間委託の更なる推進など、入国手続きの迅速化が図られるための所要の措置を講じられたい。

2. LCCの就航拡大などによる利用者の増加を踏まえ、関西国際空港と関西各地を結ぶ鉄道、バス、船舶等の公共交通アクセスの利便性向上の促進を図られると共に、関西における訪日外国人の観光、宿泊等の受入対応を強化されたい。
3. 関西国際空港が、アジアの空港に伍せる国際競争力を備え、我が国を代表する国際拠点空港として日本経済の活性化にも寄与できるよう、新たな航空需要の創出に対応する第3ターミナルの整備、羽田線をはじめとする国内路線網の充実、“食”や医薬品・医療機器等の物流拠点化の取組みなどに対して、積極的な支援・協力を行われたい。
4. コンセッションの実施にあたっては、関西国際空港の国際拠点空港としての機能強化、地域との共存共栄が図られるよう、運営権の設定等について、適切に権限を行使されたい。
また、関空開港以来構築してきた空港会社と国、地元との信頼関係を踏まえ、コンセッションの実施過程における必要な情報提供、コンセッション実施後の空港運営権者と地元との良好な関係の構築に努められたい。
5. 関西国際空港のアクセス利便性の向上に向け、大阪都心部と関空を結ぶ高速アクセス鉄道の事業可能性等について検討を更に進められると共に、なにわ筋線の早期具体化に向けた取組みに対し、積極的な支援を行われたい。
また、関空との輸送の速達性に寄与する高速道路ミッシングリンクの解消についても着実に推進されたい。

平成27年11月19日

関西国際空港全体構想促進協議会

会長	(公社)関西経済連合会	会長	森	井	詳	介
副会長	大阪府知事	理事	松	戸	一	郎
〃	兵庫県知事	理事	井	坂	敏	三
〃	和歌山県知事	理事長	仁	下	吉	伸
〃	大阪市	理事長	橋	山	修	徹
〃	堺市	理事長	竹	元	喜	身
〃	神戸市	理事長	久	藤	喜	造
〃	大阪商工会議所	会頭	佐	藤	茂	雄